

「誰と会ってるん？」位置情報もとに逐一連絡

知ってよデートDV



「知ってよ！宝塚『デートDVを考える』」の一場面＝宝塚市提供

宝塚市・神戸市看護大生が動画

SNSでのやりとりを含め、交際相手から心身への暴力をふるわれる「デートDV」について若い世代に知ってほしいと、宝塚市と神戸市看護大生が協力して動画を作成した。若年層がよく使う位置情報共有アプリの問題など同世代の視点をいかした内容になっている。

宝塚市人権男女共同参画課によると、市に寄せられたDVに関する相談は2019年度は年460件だったが、20年度は年788件とコロナ下で増加傾向にある。デートDVに分類される内容も増えており、防止への理解を広めたいと企画した。

動画制作は「ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会」で性に関する同世代の相談などに取り組む神戸市看護大の学生たちが主体となった。昨年12月、学生らが出演して神戸市西区の大学構内で撮影した。

「知ってよ！宝塚『デートDVを考える』」と題した動画は約5分26秒。こんな筋書きだ。

主人公の麻衣は彼氏に頼まれてスマホに位置情報共有アプリを入れた。友人といると「三宮おるんや。行くわ」、位置情報をオフにすると「男と会ってるん？」と逐一メッセージが届く。「しんどい」「ずっと見られている感じがして嫌」と思いながらも「私のこと大事に思ってくれてるから」と我慢しようとする麻衣。悩みをじっくり聞いた友人は「ほんとに大事にされてるって言うんかな」と疑問を示し、

交際相手の暴力 気づくきっかけに

麻衣は彼氏と対等な関係でなかったことに気づく。

脚本づくりに取り組んだ2回生の谷帆海さん(20)は位置情報共有アプリでのやりとりに悩む同世代が周囲に多いことを知った。中高生で急速に利用が広がっていることもあり、題材にしたという。「まずはデートDVということばを知ってほしい」

谷さんから動画制作に参加した看護大生5人は21日、宝塚市役所に山崎晴恵市長を訪ね、完成した動画を一緒に見た。

出演した学生たちは「演じてみて何がDVかに気づかされた」「話を聞いてくれる人の存在が力になると思った」と話した。

昨年4月の就任前からカウンセラーや弁護士としてDV問題に取り組んできた山崎市長は「苦しむ本人に理解を示し、受け入れて選択肢を増やしてあげるのが大切。その気づきにもなる動画です」と語った。

動画はYouTubeで公開している。市の「たからづかDV相談室」は(0797・77・9121)。(中野晃)



動画制作の報告で山崎晴恵市長(左)を訪ねた神戸市看護大生たち＝宝塚市役所